

◀ 寄 書 ▶

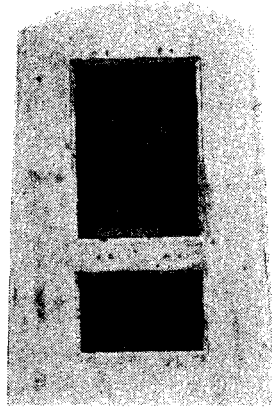
故太田円三氏記念碑の移設経過について

正員 平山復二郎*

故太田円三氏は、大正 12 年関東大震災の直後、その復興を担当する復興院土木局長に撰ばれ、鉄道省建設局の工事課長から転任したのであるが、復興院の改組後も引続き、復興院土木部長に任ぜられ、復興事業の根幹として、きわめて難事業であつた、土地区画整理の計画樹立と、その実施に、またこれにもとづく土木工事の計画、設計、施工に、全く献身的な努力を傾けて、その遂行につくしたのであつた。

かくして幾多の障害と難関を突破し、計画実現の諸準備も整い、事業もようやくその緒についた大正 15 年の春、2 年余にわたる身心の過労から、不幸事業の犠牲に斃れたのである。

当初その成功を危ぶまれた復興事業も、昭和 5 年の春には目出たく、その完成を祝うことができたのであるが、当時太田氏の友人同僚達の間には、同氏の本事業につくした功績を偲び、かつはその不幸な逝去を悼んで、



何か記念したいという議が起つて、翌年の春、深川相生橋畔の中島公園に、同氏のレリーフ像を建立した。

しかるに太平洋戦争の災禍により、この記念碑は、いたく破損を受け、たまたま去年の秋、元復興局長官の堀切善次郎氏が、これを見てこられ、池辺稻生氏に、このまま放置するには忍びないではないかと注意されたので、早速、当初の記念碑建立に尽力した有志達が相寄り、その修復再建を企図したのである。

幸いにして、当初のレリーフ像を作られた堀進二氏が、その修復を心よく引受けられ、また東京都建設局も、これを神田橋畔の公園内に移設することを承認され、一方白石建設 K K がその建設を引受けてくれたので、きわめて順調に、その再建が達成され去る 7 月 9 日に、帝都の中心に位する公園内に、その除幕の式をあげることができたのである。

(編集部註：明治末期より昭和

和初期にかけて活躍し、わが国詩壇に大きな足跡を残した詩人木下杢太郎氏は同氏の令弟である)

記念碑銘

大正十二年関東大震災の直後、氏は選ばれて帝都復興院土木局長に任ぜられ、復興事業の根幹を担つた。然も極めて難事業であつた区画整理およびこれに基く土木工事の計画遂行に直面して、献身的努力をなすこと二年余、事業の基礎漸く成つた大正十五年春、心身疲労の極事業の犠牲として、惜くもその生命を絶つたのであります。昭和六年復興事業の完成に当り先覚知友相寄り、氏の功績をしのび記念としてこの彫像を、深川相生橋畔の中島公園に建立したのであります。太平洋戦争の災禍により損傷せられたので、昭和三十年春それを修復の上、この地に移設したのであります。

昭和三十年六月

* ピー・エス・コンクリート K K 取締役社長

新刊紹介

工業材料規格便覧 (金属材料試験法)

日本材料試験協会編

本書は日本材料試験協会企画の工業材料便覧シリーズの第 2 輯として刊行されたもので、金属材料試験法に関するわが国ならびに外国規格を翻訳・編集したものである。その内容は、1. 引張及び圧縮試験、2. 曲げ試験、3. 衝撃試験、4. 硬さ試験、5. エリクセン試験、6. 疲労試験、7. クリーブ試験、8. X線試験、9. 試験ならびに検査通則、10. 金相学的試験、11. 品位判定試験、の 11 章よりなつている。金属材料試験法に関する規格のみを集録したこの種の規格集は、従来わが国においては見られず、従つて本書は金属材料の試験に関係ある多くの技術者にとつて裨益するところ多いと思われる。

掲載規格としてはまず JIS を採り、JIS と比較対照される規格あるいは JIS に制定されていない部分に関する規格としては、ASTM 規格を主体としている。ASTM 規格は数千ページに達する老大なもので、その記述はきわめて懇切丁寧であり、わが国の技術者にとつても参考となる点が非常に多い。しかしこれら外国規格は高価でまた入手困難であり、多くの技術者が常に座右に備えて、これを利用することができない。幸い本書の出現によつて、これらの規格がわが国の技術者にとつて親しまれ、その長所を取り入れ活用し、わが国技術の向上に資することが望まれる。

なお土木関係にとつては、5, 9, 10 および 11 を除く他はすべて必須のものであろう。

図表を含めた総ページ数 547 のうち、JIS 77, その他の規格 470 となつており、きわめて豊富な内容をもつている。

(B6判 p. 547 日本材料試験協会 800円)